



## 日本カトリック海外宣教者を支援する会

## 巻頭言

## 最初の派遣地はアフリカのガーナ

東京大司教区 大司教 タルチシオ 菊 地 功

私の信仰は、スイス人の宣教師から伝えられた信仰です。戦後、岩手県の宣教と司牧は、スイスに本部を置くベトレヘム外国宣教会に委託されていました。ちょうど私が生まれた頃、両親は岩手県の沿岸部にある宮古市のカトリック教会で働いていました。父親は伝道士として主任司祭を支えたり教会の事務を執り、母親は教会の幼稚園で教員をしていました。そのため、我が家は、教会の中にあつたのです。

私は、生まれた直後から、宣教師と生活を共にしていました。幼稚園の年長の頃、父親の転勤で、今度は盛岡の四ツ家教会に住むことになりましたが、そこでもスイス人の司祭と生活を共にしていました。当時まだ若い宣教師として助任だったレンネル神父さんに、毎朝のように連れられてというよりも起こされて、当時は近くにあった白百合の修道院へミサに通いました。宣教師たちは、私に何か知識を教え込んだわけではありませんが、毎日の生活を共にする中で、その姿から信仰に生きることの大切さを教えてくれたように思います。

そんな宣教師たちに育まれて、私は当然のように、中学生の時に司祭を目指して神学校に入りました。その神学校はドイツからやってきた神言修道会の神学校でした。

## ♡♡もくじ♡♡

巻頭言	1
第 69 回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	8
こんにちは!お久しぶりです	13
ザ・メッセージ ECHO	14
新入会員・事務局より	16



こうして私の宣教師としての人生が始まりました。

司祭叙階の後に派遣されたのは、アフリカのガーナでした。よく尋ねられます。自分で選んだのか、送り込まれたのか(スパイじゃあるまいし)。

大学院の授業が始まる前に、一年間休みをもらい、米国の神言会修道院に英語の勉強に出かけました。シカゴの修道院で隣の部屋にいたのが、当時米国に留学中だったガーナ人の神父さん。神言会員です。彼との出会いが、私にアフリカへの、そしてガーナへのあこがれを生み出したのです。是非ともガーナで働いてみたいと思うほど、彼との出会いは強烈でした。とことん優しく、魅力的な人物でした。

だから、終生誓願を宣立するとき、ガーナ派遣を希望しました。日本人の会員がそれまで一度も行ったことのないアフリカです。無理かと思っていたのですが、当時のローマの総会長がガーナ管区へ派遣してくれました。

ガーナでの8年間の宣教師生活の間に、いろいろな人に出会いました。先日、そんな出会いの体験も含めて、オリエンズ宗教研究所から『真の喜び』にであった人々」というタイトルで出版しましたので、是非お読みいただけたら幸いです。

でもガーナにいる間に、もう一つの重要な出会いがありました。それは、日本から宣教師を支えてくださる人たちの存在です。宣教地にいる間にも手紙のやりとりがあり、祈りを持って支えてくださる人たちの存在。また日本に戻れば、宣教地での体験話に快く耳を傾けてくださり、励ましをくださる人たちの存在。理解し、励まし、祈ってくださる人が控えているという安心感は、異国の地にあって、手探りで福音宣教に取り組む身には、本当に力強い存在でした。それは、これを読んでくださっている、皆さんのことですよ。感謝します。

すべては人との出会いです。人生とは、自ら手綱を握り、道を切り開いていくべきものではありますが、同時に岐路に立つとき、人との出会いには大きな意味があります。良き人たちとの出会いは、その後の人生を決定づけていきます。

私の宣教師としての人生は、司教となった今でも、良き人たちとの出会いによって豊かに育てられています。

これからも、日本の教会から、少ないとはいえ何人もの宣教師が、海外に派遣されていくことでしょう。その宣教師が、豊かで満たされた福音の証し人となることができるためには、多くの方のお祈りと励ましが必要です。そして、一人ひとりに良い出会いがありますように。



## 第 69 回運営委員会議事録

日 時：2018 年 6 月 9 日（土） 15:00~17:00

場 所：六本木・聖ヨゼフ修道院 2 階会議室

### 議 事

\*事務局より、新運営委員の後藤由美子さんが紹介された。

#### I. 2017 年度活動報告：すべて承認された。

- 所在地、顧問司教、会長、運営委員に変更はなく事業はすすめられた。
- 運営委員会は 2017 年 6 月 17 日、9 月 9 日、12 月 9 日、2018 年 3 月 10 日に開催。
- 広報活動
  1. 年 4 回広報誌「きずな」を発行し、ホームページも定期的に更新。
  2. 宣教者のお話を聞く会を 9 月 23 日（土）に四谷のニコラ・バレホールで開催。4 名のシスター方の出席を得て座談会形式で行ない、100 名近い参加者があった。Sr. 黒田小夜子（マリアの宣教者フランシスコ修道会）、Sr. 白幡和子（御聖体の宣教クララ修道会）、Sr. 末吉美津子（シャルトル聖パウロ修道女会）、Sr. 中出敬子（聖心侍女修道会）
  3. 「カトリック教会情報ハンドブック」に会の情報を掲載。
  4. 例年のように徳田教会のバザーに参加し、収益と共に会の宣伝、啓発ができた。
- 援助活動

宣教者から申請のあった援助について、運営委員会で検討し、緊急性、必要性の高いものから決定して実施した。
- 宣教者への支援活動

寄贈され雑誌やカトリック新聞などをアフリカ、南米の国を中心に送付し、12 月にはクリスマスカードを「きずな」に同封した。
- 会員数：法人・団体会員：1,572 個人会員：596 総計：2,168

#### II. 2017 年度決算報告：別紙のとおり承認された。

寄付金は 従来通りだったが、宣教者からの援助申請が少なかった。

### 2017 年度 会計決算

#### (1)入金部

海外宣教者を支援する会

(金額単位: 円)

項 目	2017年度予算額	2017年度決算額	摘 要
会 費 寄 付 金 入 金	8,500,000	9,692,213	
基 金 取 崩 し	0	0	

雑収入	0	1,780	交通費戻り
預け金利息	11	20	
前年度剰余金	2,442,102	2,442,102	
合計	10,942,113	12,136,115	

## (2)出金の部

(金額単位: 円)

項目	2017年度予算額	2017年度決算額	摘要	
援助費	6,500,000	2,939,388		
研修費	60,000	51,236	「お話を聞く会」等	
基金繰入	0	0		
運営経費	広報	740,000	740,564	「きずな」年4回発行・新聞広告
	印刷費	520,000	247,455	ラベル印刷・印刷機リース・インク・(封筒)
	通信費	1,340,000	1,164,603	「きずな」国内外発送・電話他
	事務用品費	20,000	52,136	宛名ラベル・コピー用紙・ソフト他
	維持管理費	1,418,000	1,408,335	事務所維持
	支払手数料	100,000	88,766	郵貯振替・国内外送金等
	交通費	160,000	168,675	「きずな」発送・会議参加・事務所
	会議費	25,000	20,000	年4回会議室利用
	雑費	30,000	48,934	派遣お祝い・お中元・お歳暮・発送茶菓子・退任御礼
	備品	20,000	18,046	プリンター買い換え・蛍光灯取り替え
	小計	4,373,000	3,957,514	
当期支出合計	10,933,000	6,948,138		
次期剰余金	9,113	5,187,977		
合計	10,942,113	12,136,115		

## 2017年度援助費

NO	国名	金額(円)	内容
1	南スーダン	507,000	シスター下崎優子(イエスのカリタス修道女会)から緊急食料支援。主食とうもろこしの粉10kg一家族5日分を500袋 1袋1,000円×500袋分
2	シェラレオネ	1,507,000	シスター吉田富美子(御聖体の宣教クララ修道会)より、2017年8月14日の洪水と地滑りの大災害に対して
3	カンボジア	361,640	JLMM井手司氏よりプルサート州クロコー郡コンポンルアン水上村、学校改修工事と浄水装置改修工事のため。

4	カンボジア	351,540	シスター橋本進子(シヨファイユの幼きイエズス修道会)より、1. カンボートカトリックセンター図書館の図書費、2. 小学校学級文庫設置費用(1, 2年生)3. 読書室世話役へのお礼(5つの村で)
5	チャド	91,000	シスター泉淑美(シヨファイユの幼きイエズス修道会)より、1. 女性たちの手芸グループ、材料購入費、(ひも、糸、木杵など)2. タグビアン修道院の近所に住む貧しい子どもたちの就学援助、識字教育の教材費、ござ、テーブルなどの青空教室の設備費。
6	国内	121,208	カトリック雑誌海外発送費・新聞購入費
	合計	2,939,388	

\* レートは一律ではありません。

## 2017年度 貸借対照表

2018年3月31日現在  
(金銭単位 円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
郵便局振替貯金	727,300	期末剰余金	5,187,977
みずほ銀行高田馬場駅前支店	4,428,810		
小口現金	31,867		
合計	5,187,977	合計	5,187,977

### 援助基金内訳

	金額単位(円)	金額単位(ドル)
郵貯銀行	9,625,108	
三菱東京UFJ銀行 普通預金	4,326,751	
小計	13,951,859	
みずほ銀行高田馬場支店 外貨普通預金	879,654	8,207.26
合計(参考金額)	14,831,513	8,207.26

### 援助基金推移詳細

郵貯銀行	前年度繰り越し	9,625,068	
	利息	40	
	小計	9,625,108	
三菱東京UFJ銀行	前年度繰り越し	4,326,715	
	寄付	0	
	利息	36	
	経常勘定へ	0	
	小計	4,326,751	
みずほ銀行外貨預金	前年度繰り越し	0	8,184.47
	利息	2,442	22.79
	小計	879,654	8,207.26
	総計	14,831,513	

\* (1 \$ = ¥ 107. 18)

## 2017年度 会計監査報告

2017年度会計報告を監査したところ適正であることを認めました。

2018年5月11日

監査役 長井 甫 

Ⅲ. 2018年度の活動計画・予算審議：別紙のとおり承認された。

### 1. 諸活動

#### 1) 広報他

- 「きずな」年4回発行 3800部
- ホームページの運営による広報活動
- 今年度はカトリック新聞に広告掲載
- 会のパンフレットリニューアル

#### 2) 援助

- 運営委員会で申請プロジェクトを審議の上、実施する
- 2018 海外宣教者名簿作成

#### 3) 講演会・勉強会

宣教者をお招きして「お話を聞く会」を10月開催

#### 4) その他

- 帰国・一時帰国された宣教者とのコンタクト、インタビュー
- 会のPRもかねて教会バザーへの参加
- 宣教者へ雑誌、カトリック新聞などを送付
- 宣教者へクリスマスカードを送付

### 2. 予算表について

「印刷費」には会のパンフレットと宣教者名簿をリニューアルする費用が含まれている。

「維持管理費」は電気代の分担金として聖ヨゼフ修道院へ2か月に1度、献金という形で納めている。

## 2018年度会計予算表

### (1)入金の部

(金額単位：円)

項目	2017年度決算額	2018年度予算額	摘要
会費寄付金入金	9,692,213	9,500,000	
基金取り崩し	0	0	
雑収入	1,780	172,627	10年定期利息
預け金利子	20	20	
前年度剰余金	2,442,102	5,187,977	
合計	12,136,115	14,860,624	

### (2)出金の部

(金額単位：円)

項目	2017年度決算額	2018年度予算額	摘要	
援助費	2,939,388	6,000,000		
研修費	51,236	60,000	講演会講師交通費、謝礼他	
基金繰入	0	0		
運営経費	広報	740,564	750,000	「きずな」年4回発行・広告・HP
	印刷費	247,455	550,000	封筒・宛名印刷・コピー・パンフ・宣教者名簿
	通信費	1,164,603	1,300,000	「きずな」国内外送料・電話・郵便値上げ
	事務用品費	52,136	50,000	宛名・コピー用紙・ソフト他
	維持管理費	1,408,335	1,800,000	事務所維持費(名簿・パンフ制作含む)
	支払手数料	88,766	90,000	振込・送金手数料
	交通費	168,675	170,000	「きずな」発送・会議参加他
	会議費	20,000	20,000	運営委員会年4回
	雑費	48,934	50,000	弔慰金他
	備品	18,046	20,000	PC周辺機器
小計	3,957,514	4,800,000		
当期支出合計	6,948,138	10,860,000		
次期剰余金	5,187,977	4,000,624		
合計	12,136,115	14,860,624		

#### IV. 「きずな」143号について

- ・巻頭言にある「ジャブチカバ」という木が珍しかったので、シスター日高に問い合わせ写

真を掲載した。

- ・最近、お便りなど記事が少ないので、あらためて編集担当からのお願いを載せた。
- ・日本で支えている方（発送ボランティアなど）から応援の記事を載せたらよいのではないか。

#### V. 「きずな」144号の巻頭言について

巻頭言は144号は菊地 功大司教様をお願いすることになった。

#### VI. 援助申請審議について

1. チャドのSr. 泉淑美（ショファイユの幼きイエズス修道会）より、宿泊センター（60床）で使うスポンジ製のマットレス 30個購入する費用 720,000 フランの申請があった。これは以前に30個の支援をした2回目。検討の結果換算して 1,110ユーロの支援を決定した。
2. カンボジアの井手 司(JLMM)さんより、水上村の教会および学校の塗装工事費＝\$ 1,800 教会土台補修工事費＝\$ 2,800 浸水してしまった通学船補修工事費＝\$ 400 合計\$ 5,000 (¥545,000) の申請があり、援助を決定した。

この2件の援助金の合計は約65万円

#### VII. その他

1. すでにお知らせしたとおり、今年のお話を聞く会は菊地大司教様をお願いして10月27日（土）13:30から四谷のニコラ・バレ9階ホールで開催される。
2. お話し会のチラシは、B5判と葉書サイズで作成する。
3. 143号の発送は、6月7日にマリアの宣教者フランシスコ修道会瀬田修道院でベトナム人志願者を含む19名のボランティア参加、3,250部を発送、作業は11時に終了した。海外便および国内大口便は6月5日に事務局から発送された。
4. 今後の予定  
事務所夏休みは8月10日～8月14日  
次回運営委員会日時 2018年9月8日 15時～



## 宣教者からのお便り



パラグアイ ◆アスンシオン◆

### 50年の宣教

聖霊奉侍布教修道女会 山田 雲江

1966年10月末、シスター金永と共にアル

ゼンチナ丸（移住貨客船）で神戸港を出発しました。52日間の船旅を終えてブエノスアイレスに到着、そこからパラグアイに入国しました。当時独裁政権下にあったパラグアイは、本当に何も無い所でした。私は聖霊会の支部と学校の設立のため、国内で移住したパラグアイ人が住



み始めた小さな農村に送られました。住む家が無かったので、神言会の宣教司祭が、木造の掘立小屋のような手作りの教会の側にある、“土人小屋”と言われるトルドを貸していただき、2人のシスターと共に住むことになりました。そこから30 km離れた「イグアス日本人移住地」に通い始めました。交通の便もなく何10 kmも歩いて、まずは移住地の家庭を一軒一軒訪ね、ご挨拶して廻りました。

皆さんが大変喜んでくださり、畑仕事の手を休めてつるべ井戸の水をくみ上げてのおもてなしでした。そこから始まったつながりは、50年の年月を経て温かい思いやりの中で続いております。訪問の度に、移住の動機やいろんな苦労話を聞かせてくださり、一人ひとりの心持ち、生き方に触れることができ、自分の心が開かれていくのを感じました。この生きた体験の分かち合いで豊かに導かれ、宣教者として育てられていることを感じ、感謝の念でいっぱいの日々でした。

初誓願10か月で修道生活の経験もなく、宣教についての十分な認識もないまま派遣されま

したが、派遣の恵みと召し出しを感謝してその意気に燃えていたことで、たくさんの辛かったこと、悲しかったことに耐え、お捧げしてきたことによって主に導かれ、宣教者として育てられてきました。

イグアス移住地への宣教は「主が始められ、続けてくださっておられます」。無から始めて、私が体調を崩して続けることができなくなった時、心を乱すことなく「主が始められたこのミッション、どうぞ後継者を送ってください」と祈り続けました。ドミニコ会のSr.中村とSr.氏家が交代で続けてくださり、その後ノートルダム教育修道会のSr.上谷、Sr.島崎、Sr.峰が続けてくださいました。

2007年にはブラジルの修道会から神父様方が、2012年にはシスター方3人が加わり、小教区として指定され、日系人、ブラジル人、パラグアイ人の移住地を差別なくお世話くださっています。さらに、学校、神学校を設立され、パラグアイの社会と教会宣教の将来のために尽くしてくださっています。今、イグアスの移住地で生まれ育ったヨゼフ越智なおき君が、ローマで哲学2年目の神学生です。なおき君が召命の道を歩み続けられよう、皆様、どうぞお祈りください。

当初は故クルッカ神父様が、その後アルゼンチンの北島神父様が、日系信徒のために月に1度のミサが捧げてくださっていましたが、続けることが難しくなりました。この度、神言会のホエル神父様がインドから派遣されました。神学生として3年間、名古屋の南山大学で日本語を学ばれ、上手に話され読むこともできます。今、ピラボ、ラパス、イグアス移住地で、月に

1度日本語のミサを捧げてくださっています。皆さん大喜びで感謝していらっしゃいます。

私も83歳と高齢になりました。こんなに長生きして、と閉じこもるのではなく、いつも心を開いて恵みに感謝しています。一人ひとりの中に現存される主のみわざを賛え、召される日まで主の道具としてお使いくださるよう、祈り願う毎日です。

ボリビア ◆サンタクルス◆

## ボリビアも気候の変化が激しいです

サレジオンシスターズ 漢那和子

皆様お元気ですか。本日小冊子が届きました。ありがとうございます。こちらはしばらくの間郵便局が閉鎖されてしまい、大変困っておりましたので、郵便物が届きほっとしたところです。

ほんの少しですが、日本からのニュースを知ることができます。日本人の住むコロニアは直接日本からのテレビが入りますが、私の修道院には入りません。ですから後になって知るといふことで、つい数日前に、長崎の教会群が世界遺産に登録されたことを知りました。本当にうれしいことです。同時に豪雨による水害でたくさんの方が亡くなったことも知り、私たちではどうすることもできない悲しみでいっぱいです。一日も早い復興と心の癒しが与えられますようにお祈りしています。

日本は大変な暑さだとメールがありました。皆様お体を大切に。ボリビアも寒くなったり、暑くなったり気候の変化が激しいこの頃です。

カンボジア ◆カンポート◆

## カンポートの図書館に毎日50～60名の子供たちが

ショファイユの幼きイエズス修道会 橋本進子

日本は大洪水に続いて猛暑のため熱中症で、多くの方がお亡くなりになると聞いています。先日、日本のため、また甚大な被害にあわれた方々の一日でも早い復興を願ってミサを捧げてもらいました。

こちらカンポートも、もう1か月になるでしょうか、毎日断続的に雨が降っています。家屋浸水、近くの小学校も浸水と庭が水浸し、私の部屋の天井は雨水が地図を書いています。

2018年度は休暇帰国が出来た年で、4月と5月に帰国いたしました。事務局の皆さんにお礼と報告のため上京できることを楽しみにしていました。ところが通院と、そして2週間入院することになってしまいました。1週間の「年の黙想」に与る予定の前でしたが、私の年齢を心配なさって指導司祭が申込みをする時「高齢者は時々黙想半ばで病気になられるシスターがいるのですが、大丈夫ですか」と聞かれたそうです。その心配の通りになった私自身、つい苦笑いたしました。退院、3週間後にカンボジアに戻りましたが、戻って1か月が過ぎたこの頃、やっと元に戻れたかなあと感じています。ご挨拶に伺えなくて残念で申しわけございませんでした。

チョンカチアン村の「聖テレジア幼稚園」のモンテソッリー教育法による幼児教育に続いて、2017年10月から本格的にモンテソッリー教育法による保育が始まったカンポート町の幼稚園、7月26日に終業式を迎えます。資金面、

先生方の指導養成等で、保育と指導者教導の責任を任せられている Sr. 園田国子には心配と苦勞の1年間でした。しかし、子供たちと過ごす保育の時間、出迎え見送りの時の子供たちとの対応、また1年間の子供たちの成長の姿を見ては「子供たちに中にいる時がいちばん楽しくほっとする。喜びがもらえる」と子供たちから日々新たな力をもらっておられます。

「きずな」の皆さまからのご支援に支えられております「読書推進活動」、カンボット町の図書館では、毎日50名～60名以上の子供たちが来館、うれしいことに静かに本を読む子供が増えてきています。8月から学校は2018年度の長期休暇に入ります。8月と9月いっぱいを読書週間にして、この期間に300ページ以上読んだ生徒と英語の辞典や絵本風の民話集等を10冊読んだ生徒にはノートとボールペンを、奨励賞として贈呈します。

5つの村で読書室の世話をしてくれているスタッフたちは、子供たちの指導助言をよくしてくれています。キリボン村のスタッフは私が日本に帰っている間に、幼児を母親に預けて夫婦ともどもプノンペンに出稼ぎに行ってしまったいました。よくあることですがお金が欲しいのでしょう。かわりに私がよく知っている新しいスタッフが後を継いでくれていました。

後になりましたが、私たちのカンボジアでの使徒職を支えてくださっている皆様に、たくさんお礼を申し上げます。

そして今後ともどうぞよろしく願いいたします。感謝と祈りのうちに。



カンボジア ◆コンボンルアン◆

## 任期延長を決め心はすっきり

JLMM (信徒宣教会) 井手 司

今年は5月末から7月にかけて、一時帰国しました。多くの場所で報告会をして、大きな喜びをいただきました。報告会の前半はカンボジアやコンボンルアン水上村の現状、後半は、私が派遣される前と現在との心境の変化を伝えましたが、私の心境の変化に、多くの人が興味・関心を持ってくださいましたので、今回はそのことに触れたいと思います。

私は現在35歳。大学卒業後地元福岡県久留米市で就職、30歳まで働いていました。私は卒業する時、特に夢はありませんでした。入社後は何度も辞めようと思いましたが、辞めても他に就きたい仕事がないので、そのまま仕事を続けていました。仕事では順調に出世が出来、実家暮らしだったので経済的に余裕ができ、贅沢な暮らしをするようになりました。付き合いなどで外食しお酒を飲む機会も増え、仕事上のストレスをお酒で発散させるようになりました。しかしお金が貯まっても、仕事上のストレスもどんどん溜まっていきました。

仕事は充実していましたが、本当にやりたい事が何なのか分からず、もしかしたら他にやってみたい事があるのではないかと考えるように。迷っている時に、南米やアフリカ、東南アジア等でボランティア活動をしている人の話や、NGOの活動報告などを聞く機会がありました。聞いた内容は私が知らない事ばかりで、無知を痛感。現地に行って生活してみたいと思

うようくなりました。しかし現地に行って「支援」を行なうという考えはありませんでした。日本より厳しい環境で生活する事への挑戦と、そんな環境で生活する事で何が出来るのかを探りたいという気持ちが強かったです。そして縁があり、JLMMの派遣者としてカンボジアへ。カンボジア、コンボンルアン水上村で活動を始めた当初は、水上村の環境に馴染むことが出来ませんでした。

今私は、3回目の任期延長を行ない、2年半の任期が5年半になりました。日本で仕事をし収入を得たい思いが強くなってきたため、延長せずに帰国するつもりで、水上村の村人から何度も帰らないで欲しいと言われても断っていました。しかし村人の熱意に負けて、2019年7月までの1年の任期延長決定。

日本に帰ると決めていた時は、決断は正しいのかと迷いがあり、心の中はモヤモヤ。しかし任期延長を決めた後は心の中がスッキリとして、現地の人のために活動を頑張ろうと思えました。また、何故水上村の人々が残って欲しいと思ったのかも考えました。村人が「つかさとは会話が出来る。私たちの話を聞いてくれるし、私たちのために働いてくれている」と言ってくれた事を思い出しました。活動を始めた時、環境の違いに戸惑っている自分がいました。そのため無理に環境に慣れようとするのではなく、村人との会話を大切にして、村人の事や水上村の事を知るのを大切にしてきました。またこれまで活動を続けてこられたのは、人々の支えがあったからです。活動のさまざまなプロジェクトは、全て学校の先生や、教会委員会のメンバーの支えが無ければ行なう事が出来ません。私は

水上村の人々にお世話になっていますが、人々のために何も出来ていないように感じています。そのため、残り1年の任期の中で出来る事は僅かかもしれませんが、水上村の人々のためにしていきたいと思うようになりました。水上村の人々から多くの事を吸収していく中で、誰かのために自分に出来る事をしたいと考えることが出来ましたので、今後も村人との交流を大切にしていきたいです。

## ハイチ ◆ポルトランス◆

### 大地震、度重なるサイクロンの直撃

シヨファイユの幼きイエズス修道会 小井手 恵美子

私たちの修道会は昨年9月に、ポルトランスのラタン地区のはずれにある貧しい地域に、より貧しい人々の近くで教会に奉仕するための共同体を開き、3人の会員（日本人2人、カナダ人1人）がここで生活をしています。

ご存知のように2010年の大地震で被害を蒙り、未だに復興も難しい状況です。地震後に世界中から寄せられた援助金は残念ながら活かされず、一部の人のポケットに入ってしまったこと、また度重なるサイクロンの直撃によって、復興がままならないことによると思われます。

私たちの共同体が属している小教区は「み心の宣教者」という修道会の神父様方が司牧しておられます。敷地内に貧しい人々のための診療所を建てましたが、資金がなく十分な働きができませんでした。今年、ドイツの援助によりようやく薬を購入でき、5月から本格的に動き始めました。私たちの姉妹もボランティアで働い

ていますが、スタッフたちの並々ならぬ苦勞を  
目の当たりにするたびに、何とか助けてあげら  
れないかいつも考えております。

度重なる自然災害にも屈せず、慢性的な経済  
不況の中にあっても、絶えず神様を信頼し、希

望を持ってたくましく生きる姿から、私たちは  
多くのことを学び、考えさせられます。苦難の  
中で神様に祈り叫ぶ人々と共に生きることに  
よって、本当の豊かさとは何かを問いかけられ  
ているような気がしてなりません。



### 事務局訪問の宣教者

6月5日 ————— カンボジア



JLMM (信徒宣教者会)  
井手 司

いつもご支援いただきあり  
がとうございます。1年に1  
度の一時帰国で帰ってきまし

たので、ご支援のお礼を申し上げたく伺った。  
いつもお願いしている水上村の建物は、常に水  
に浸かっているため、腐食が激しいので修理が  
必要になっている。また、識字教室には60名  
もの子供たちが元気に通って来ている。

7月13日 ————— カンボジア



ショファイユの幼きイエズス修道会  
Sr. 谷村恵子

未だにポルポト政権によっ  
て知識階級がすべて抹殺され  
たことの後遺症は大いにある。

特に子供たちは深刻である。みんなけがをして  
も手当てができない。ちょっとしたことでも知  
識がないため悪化することもあるようだ。支援  
の手や援助がたくさん入ってきているとはいえ、  
まだまだ復興は遅々として進まない。援助金な  
どは権力者に抑えられ、人民の所にやってこな  
いのも問題である。

7月13日 ————— ハイチ



ショファイユの幼きイエズス修道会  
Sr. 小井手恵美子

こちらの教会の神父様が皆  
さんの要望に応じて2階を診  
療所としたが、診療に必要な

ものを購入することもできない。教会はさなが  
ら社会福祉協議会のような働きをしている。地  
元の人のシェルターあり、すべてを教えてくれ  
る所であり、すべてを引き受ける場所でもある。  
しかし、人々の信仰は篤く、大きなお祝い日の  
前後にはノベナを行なっている。

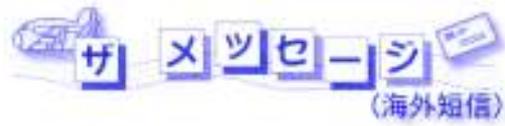
7月13日 ————— チャド



ショファイユの幼きイエズス修道会  
Sr. 平 静代

6月に一時帰国し、郷里の  
奄美で年老いた母のもとで2  
週間過ごした。今回パソコン

の購入を申請したいと思う。若者が情報社会に  
生きるためにパソコンに触れることは大切であ  
る。チャドでは電気の使用時間が、朝7時から  
13時までと17時半から21時までとなってい  
るので、夜習得することになります。高校卒業  
後の彼らの進学にも有利になると期待している。



▲ベルギー ブルージュ

カルメル会 出口節子

長い間お世話になりました。2018年内にベルギーの私たちのカルメル会は閉鎖することになりました。長い祈りの宣教生活でしたが、私は帰国して福岡のカルメルで、祈りをもって宣教を続けるつもりです。Sr.米沢不二子はベルギーに帰化しており、こちらで喜びのうちに召命を全うなさいます。世界各地で宣教しておられる皆様の上に、神の恵みを祈り続けます。

▲南アフリカ プレトリア

聖霊奉侍布教修道女会 吉田彰子

私は9年の南アフリカでの奉仕を終えて、8月28日に日本管区に戻ります。もう1人日本人のシスターがいらっしゃいますが、未だにお会いできていません。皆様のお祈りと犠牲に心から感謝申し上げます。海外で奉仕できるのは、隠れたところで見も知らない方々が祈ってくださっているからです。今夏、日本は洪水と酷暑とで災害列島と呼ばれていると聞きました。こちらでもたくさんの方が、たいへんですね、と心配してくださいます。どうかお身体をお大切に！

▲アメリカ ポストン

師イエズス修道女会 丹野清子

8月1日の成田着便で日本へ帰ってまいりました。永住帰国のためです。長い間の皆様からのお祈り、ご支援に心から感謝いたします。現在八王子の修道院でミッションの疲れと暑さへの対応の

ため、ゆったりした毎日を過ごしております。

▲ペルー リマ

イエスのカリタス修道女会 秋永みすえ

長い間、ボリビアにて宣教活動をしておりましたが、2016年よりペルーに派遣されました。いつもたくさんのご支援をいただき、今もコロナ沖縄のためにご協力いただき、心より感謝申し上げます。今回は、リマにある私たちの小さな学校へのご支援をお願いしたくメールをしました。どうぞよろしく願いいたします。皆様お元気でお過ごしください。



★気温の高い酷暑が続いております。宣教者の皆さまのところは…？と考えたりしておりますと、お見舞いに行きたくなります。皆様のご健康をお祈り申し上げます。

(神奈川県横浜市 長田弘子)

★いつも「きずな」をお送りくださりありがとうございます。届くのを楽しみにしています。これからもずっとよろしくお願い致します。

(東京都日野市 小川弥生)

★「きずな」の心あたまる思いを感謝で読ませていただいております。故梶川神父の兄ですが、5人兄弟でしたが私だけになりました。今は思い出を大切にしております。

(神奈川県横浜市 梶川貞二・たみ子)

★幼きイエス様の祝福が、支援を待つ子供さん方の上に豊かに降りそそぎますようお祈りします。

(東京都西東京市 高山協子)

# 海外宣教師のお話を聞く会

日本カトリック海外宣教師を支援する会 TEL : 03-5770-8753 (火・金 10:00~16:00)



カトリック東京大司教区

菊地 功大司教

『アフリカ宣教から学んだこと』

10月27日(土)

四谷ニコラ・バレ 9階ホール

13:30~15:30(13:00開場)

入場無料



## 新入会員 (敬称略)

個人会員 2名

花田 春美 (広島県広島市)

当津 順子 (神奈川県川崎市)

### 悲しいお知らせ

アルナルド谷村達郎神父様 (コンベンツアル聖フランシスコ会) が4月30日に76歳で帰天されました。葬儀・告別式は5月4日に行われました。

1973年に司祭叙階。教育、出版、海外宣教など広い分野で活動。「きずな」にイタリアのアジジから何度か楽しいお便りを寄せてくださいました。

### 事務局よりお願い

- \*世界もさることながら、災害列島と呼ばれる日本にあって今年、さまざまな場所で被害に遭われました会員の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。そして皆様が普段の生活を取り戻せる1日も早い復興を、お祈り申し上げます。会報誌144号の中にもし寄付のための赤い伝票が入ってございましたら、お許しいただき、お捨ておきください。
- \*これまで通り、広く未使用の切手や書き損じのハガキなどを集めておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。
- \*今年の「お話を聞く会」は、東京教区 菊地大司教様をお迎えして10月27日(土)に開催します。ご来場をお待ちしております。P15のチラシ参照。

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

会長 M. マタタ

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112

日本カトリック海外宣教者を支援する会

・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会